



2 学期が始まりました

本校は9月1日より、2 学期が始まりました。こどもたちは熱中症警戒アラートが出ているものすごい暑さの中、元気よく登校してきました。

さて、始業式での私の話は、1 学期の終わりに話した「命」「挑戦」の話です。始めは「命」の話から入りました。この夏、全国各地で水難事故や交通事故が起きています。特に、同じ年ぐらいのこどもたちの事件事故は本当に悲しい出来事です。みんなでこうして、今ここにみんながいるだけでいい・・・そしてうれしい気持ちでいるとまずは話をしました。次に、本校のめざすこども像の話をしました。私の話はいつも同じ願いです。4つの合言葉で学校生活を送ってほしいと話しました。

そして、今回、最後に話をしたのは「挑戦」の話です。メジャーリーガーのジム・アボット選手の話をしました。以下のような話です。



出雲郷小 こんな子どもに

あ あいさつができる子
だ ともだちを大せつにする子
か かしこく考える子
え えがおがすてきな子

生まれつき右手首から先がないハンデを抱えながら、高校時代から注目を集めたアボット選手は、卒業後の1985年にメジャーリーグに36番目に指名を受けたが、契約せずに大学に進学。その3年後にドラフトでエンゼルスから1巡目8位指名を受けてプロ入りした。アボット選手はその後、メジャーリーグで10年間プレーをして、そのうち、ヤンキースというチームに在籍時、ノーヒットノーランを達成した。そして、96年に現役引退。引退したその2年後、ホワイトソックスというチームで現役復帰して「新たなチャレンジ」を始めた。本当にすごい選手である。さらに「チャレンジ」は続く。翌年、アボット選手が選んだのは自身初の、投手もバッターとして打席に立たなければならないメジャーチーム。メジャーリーグにおける一般的な投手であっても、ヒットを打つことは決して簡単ではないだけに、アボット選手にとって、それはまさに「新たなチャレンジ」だった。開幕から15打席無安打だったが、6月15日のカブス戦で“奇跡の瞬間”は訪れる。アボット選手は、カブスの投手から痛烈なライナーでヒットを放った。しかもランナーは生還してメジャー初安打は初打点のおまけ付きとなった。アボット選手が「こんな言葉を残している」

「LIFE IS CHALLENGE」(人生は挑戦である)

2 学期は、その学年で思い出に残る行事がたくさんあるのでアボット選手のように「挑戦していこう」と話しました。こどもたちにとって充実した2 学期になってほしいと思っています。保護者の皆様、地域の皆様ご支援よろしくお願いします。

出雲郷小学校に「みどりの奨励賞」をいただきました

本校は、「みどりの少年団活動」を長年やってきております。今年度は、その「みどりの少年団活動」を発表する順番でした。7月28日に6年生3名が江津少年自然の家において、出雲郷小の取組を堂々と発表しました。その結果、学校に対して奨励賞をいただきました。

このすばらしい発表を全校のこどもたちに伝えたいと考え、始業式後にその3名のこどもたちが「みどりの少年団活動」について発表をしてもらいました。本校の各学年の取り組みがつながりあっていることに改めて気づかせてくれました。以下のような発表内容です。



7月28日 江津少年自然の家で「島根県緑の少年団」の発表大会がありました。私たちは、出雲郷学校の代表として、学校生活の中で取り組んでいることや活動を「地域とつながる学校の活動」というテーマで発表しました。

まず1年生と2年生の活動を紹介しました。1年生は、毎年さつま芋の苗を植えて育てています。5月・6月は水やりを中心に、7月は草取りをしっかりと、10月には1年生みんなでサツマイモの収穫をしています。2年生は生活科の学習で、野菜の栽培活動を5・6・7月にします。ミニトマト、ピーマン、キュウリ、オクラなど、自分が育ててみたい野菜を選んで育てます。登下校の道に野菜畑を見つけて、何が植えてあるのかを見たり、自分の野菜の様子と比べたりしています。校庭の東側に「あだかえの森」という学校の林があります。1年生も2年生もこの「あだかえの森」が大好きで、大休憩や昼休みにあだかえの森で遊んでいます。春は虫探し、秋は秋見つけ。枯れ葉や木の実を探して集めたり、タブレットで写真を撮ったりしています。私たちが低学年の時は、生活科の時間に隣の出雲郷幼保園の奥にある「うぐいす山」にも入って楽しく遊びました。

3年生は、春はキャベツを育てモンシロチョウが卵から成虫になるまでの観察をします。6月はホウセンカを一人一鉢で育て、夏休みは持ち帰って、種が取れるまで育てます。秋には、東出雲町特産の「干し柿」について学習します。町内の畑地区の栽培農家さんに見学に行った後、学校で干し柿づくりに挑戦しています。10月には、校区内の今宮地区の農家さんの協力で、農家さんの畑で大根を栽培しています。種まき、草取り、収穫をして、3学期には大きな大根を持ち帰ります。4年生は、東出雲町の偉人「佐藤忠次郎さん」について学習します。農具の歴史や忠次郎さんが発明した脱穀機という農機具、焼玉エンジンなど、東出雲町や島根の素晴らしさを学びます。

5年生は、地域を流れる意宇川を、上流から下流まで調べます。川幅、流れる水の量や流れの速さ、水の中の生き物の種類や水のきれいさなどを現地へ行って調べながら、川と山と私たちの生活の関係・大切な自然を守るためにできることを学習します。そして6年生は、島根半島ジオパークについて、島根原子力発電所も見える「須々美海岸」や、「加賀の桂島」へ行って、海岸の岩として現れる地層の学習をします。学校の周りでは見られない、迫力のある海岸の地層について、島根大学の先生や加賀地区の先生から説明を聞き、山・川・海のつながりについて学習をします。桂島の海岸では、地層学習だけでなく、海岸の清掃を行います。6年生はたくさんのごみが流れ着いていることに驚き、環境を守ることの大切さについて改めて考えを深めたようです。

これら、学年による活動のほかに、私たちは全校でビオラやパンジーの、「一人一鉢の活動」を秋から春までしています。春にたくさんの花が咲くように、秋から冬の間は花が咲くと早めに摘み取ります。そして、みんなで世話をしたビオラやパンジーを、卒業式と入学式の式場の中や式場入り口、記念写真を撮る前庭に飾り、5月まで昇降口の周りを飾っています。私たち福祉委員会では、「人権の花」のお世話をしています。5月にはヒマワリ、マリーゴールド、ケイトウ、サルビアの種から苗を育て、夏休みの前にはその苗を全校のみんなに配ります。もちろん前庭でも育てています。出雲郷幼保園にも配ります。夏休み明けには、家で育てた「人権の花の写真」を募集して、校内に掲示します。このように、出雲郷小学校はいろいろな花を育てたり、地域の人と野菜を育てたり、森で遊んだり、自然を観察したり、地域とのつながりを大切にしながらいろいろな活動をしています。

今回の発表会参加のために出雲郷小学校の6年間の活動を思い返してみると、それぞれの学年でいろいろな活動をしなが、島根の自然とかかわったり地域の人と触れ合ったりして、自然の大切さや島根のよさがあらためてわかりました。

これからも、1年生から6年生までの活動を大切にしていきたいと思います。